

## オオヨシキリ(2)



オオヨシキリの独特な囀りが聞こえていました。2008年6月12日、札幌工科専門学校の実技支援で学生達が集まるのを待っている場面でのことです。そこは札幌市のテレビ塔から2時の方角、直線距離にして約8kmにあるモエシ沼の北側に区画された中沼西モエシ団地の一角で、専門学校の造園実習地の一つなのでした。

モエシ沼を水源とする流れは北に向かい篠路新川になり伏籠川と合流さらに茨戸川に合流します。モエシ団地あたりでは対岸左岸側の鉄鋼団地との距離も短く、川幅も狭いのですが、びっしり繁った葦原の中を明るい茶色に濁った水路が蛇行していました。そんな環境なのでオオヨシキリがいても不思議ではありませんが、この鳥は先に中国内蒙古自治区の庫布齊沙漠の北西端黄河河畔での出会いを報告しましたがその時は声を聞いただけで姿は見えませんでした。ウグイス科の鳥達は姿を見るだけでも難儀します。まして撮影となると大変なのです。ただ声は代表者ウグイスのようによく響く大声なので遠くからでも存在はわかります。シルエットや生態が似ている同志は囀り方ではっきり区別しますので、ウグイス科の鳥達は声を出してくれさえすれば同定できます。

分布は広くヨーロッパからアジア大陸の温帯域、アフリカの北部、インドネシアやフィリピンにいたるまでを南北に行ったり来たりしているようです。私の体験でも居住地や旅の地のあちらこちらで声を聞いております。まず一度聞いたなら納得していただけると思う囀りなのです。

装いは全体が薄茶色ですが、シルエットで特徴的なのは頭髪の後部がぼさついていることです。サッカーは中田英寿選手のヘアスタイルの感じなのです。和名にオオがつくように大きさはコヨシキリに対比しての命名でしょうが、スズメよりちょい大き目程度です。生態的に一夫多妻であるらしいのですが、見つけるだけでも困難なこの鳥のペアリングの相手を確認するのに誰がどんな方法で行ったのかご存知の方がいらっしゃいましたら教えてください。



札幌工科専門学校は当協発足からわずか4ヶ月後2002年10月3日に有明第二で10名の学生に研修指導したのが始まりで、以後年に2回ペースで林業演習指導を支援してきました。学生数は少ないのですが、6年間の数は100人を超えているでしょう。希望進路をはっきり見据えている学生達は取り組む姿勢も意気込みも快い感じがします。この日はチェンソーと刈払機の操作実習でした。1年生は初めて機械に触れることなので初めはおっかなびっくりで腰が引けていますが、すぐに馴れて1時間も触らせておけば習熟するだろうと思わせます。人数と時間の制約から習熟させるまで機械を持たせることが出来ないのは残念でしたが、基本動作と機械の扱い方を体感することが目的なのでよしとしましょう。

今年の次回演習は「アイケンの森」のカラマツ人工林で間伐の実際と育林方法を指導支援する方向で調整しています。